

☆立ってられない
大きな地震の場合

地震発生

☆津波も想定する

揺れが収まり 5 分以内の退避行動・安全確保・情報収集

その時児童が

*石川、佐渡沖での地震
後、5 分程度で津波の第
一波が到着する。

1 自宅にいるとき

●在宅による児童の安全確保を基本に、家庭による対応を行う。

○状況が確認され、安全が確保されるまで、屋外の安全な場所
で待機。その後、避難場所、または、垂直避難

○登校前の場合、保護者と待機、避難。防災無線や緊急メール等で情報収集

○リーバー、PTA メールに注意
・児童の安否、連絡場所確認
・登校に対する措置

校区内避難場所

- ・田沢小学校
- ・田沢幼稚園
- ・田沢地区公民館
- ・青海中学校
- ・糸魚川市立健康づくりセンター
- ・田沢体育館
- ・青海総合福祉会館
- ・青海総合健康センター
- ・各支館

2 学校にいるとき

●学校における児童の安全確保を第一に、職員による対応を行う。

○状況確認され、安全が確保されるまで、放送の指示で学校の指定した場所
で待機(地面に伏せ頭部を守る)
・教室は落下物から離れ、机の下に静かに退避。体育館は真ん中で頭部を隠し、小さく丸まる。指示に従い、速やかに3階に退避する。

・休憩中は最寄りの職員の指示、誘導で3階に避難する。
・帽子や体育着袋で頭部を保護

○校外での活動の場合、職員の指示により、右記3の場合に準じて行動

○安全が確認された後、正常な学習活動を継続
・子どもの心の安定に配慮

○正常な下校ができない場合は、緊急連絡により児童引き渡し(事前に名前を告げた方から迎えに来ていただく、それまでは学校で預かる)

・リーバー、PTAメールの配信

てんでんこは、津波避難についての東北三陸地方の方言である。「てんでん」とは、「てんでに」や「てんでんばらばらに」という意味で、薄情なようではあっても、「てんでんばらばらに急いで早く逃げよ」という、津波から逃れるための教えである。

3 登下校中 他

●状況を想定した事前指導のもと、児童の主体的な行動を促し、安全確保の対応を行う。

○登校中であれば(班長を中心に)まとまって行動

○下校中であれば、仲間同士で行動(下級生を守る)

・揺れているときは、ブロック塀などの倒れるものから離れ、自動車に気を付けてかがむ。

・ランドセルや体育着袋等で頭部を保護

○揺れが収まったら、急ぎ、例えば・・・

①家を出たばかりであれば帰宅

②学校に近ければ、学校に退避

③近くに高い建物、避難場所がある時はそこに退避

・必要に応じ、職員による校区内巡視

*①②③については、「てんでんこ」になることも想定し、各家庭でお子さんとどのあたりならどこへ退避するか決めておいてください。

令和6年1月9日

保護者の皆様

糸魚川市立田沢小学校長

緊急時における児童の安全確保について

日頃より大変お世話になっております。

先日、令和6年能登半島地震にともない、大津波警報が発出されました。ご家庭でも驚きと不安をもたれたことと思います。

さて、今後も同様なことが予想されます。児童の安全確保のため、裏面の点についてご理解、ご協力をお願いいたします。

特に、**3 登下校中 他**の例①②③については、ご家庭から学校までの距離や建物、海拔等の状況が異なります。場合によっては、班でまとまらず「てんでんこ」の避難がよいこともあります。また、避難場所へ直接行かせることもあるかと思えます。

早急にご家庭でお子さんとよく話し合い、実際に通学路を確認してください。